

4 班それぞれの感想

子供に比べてお母さんは積極的で、田んぼの生き物にも興味津々の様子でした。次回、田んぼの変化とともに、子供たちの活発さにも期待したいと思います。とは言え、時間の制限もあるので收拾がつかなくなるのも困るし、頭の痛いところです。シュレーゲルアオガエルの卵塊をさわったり、観察箱で見たりできたのは良かったです。

(A 班担当 梅田・榎)



B 班は、午前の部、午後の部とも、兄弟で来ている子どもたちは元気活発、一人で来ている子どもはおとなしいという組み合わせでした。トカゲやトンボを見つけたらすぐさま追いかけてつかまえたり、教えたことをすぐに実践してみたりする子に対して、慎重に話を聞いてからさらに親に勧められてからやってみるという子などいろんな子がいて面白かったです。子どもによって溝を流れる水の中にエビがいることに気づかされました。

(B 班担当 細川・福井)

午前は一組。お母さんは積極的で生き物に興味津々、子供は虫が怖くって草のあぜ道をやっと歩ける感じでしたが 10 円磨きは楽しそうでした。

午後はカエルを捕まえたい積極的な男の子、シュレーゲルアオガエルやトンボをみつけ追いかけていました。もう一組は親子二人ずつで、妹の方は進行に合わせるよう家族をせかせていました。子供二人とも、生き物、特に兄は昆虫に夢中でした。お父さんが生きものの好きのようで、それが伝わっているようでした。



(C 班担当 眞田・齋藤)



オオイヌノフグリの名の由来に笑い、カタバミで 10 円磨の実演をした辺りで互いの緊張がほぐれる。カタバミなど口にするのは親御さんの了解を得てから。山椒の実のピリ辛は平気でトマトが好きな男児。兄が 3w ルーペを覗くと妹も続いて観察をする仲良し兄妹。生き物が大好きな兄弟はヤマカカシの幼体とシュレーゲルアオガエルの卵観察に目が輝く。虫が苦手な男児は”メマトイ”“虫が目に入る嫌な体験も。

(D 班担当者 古結・久間)